

## 自立を見据えた読み書き計算

岡 篤（兵庫）

「人格の完成をめざす」とは

学生の頃、教育基本法（前）を初めて読んだときの印象は、「法律としては重要なものだろうけど、実践とは関係ないな」というようなものでした。確かに、それから教師になって目の前のことさらに追われている毎日の中では、ほとんど思い出すこともありませんでした。

しかし今は、「人格の完成をめざす」実践の指針となる大切な文言だと感じています。それは、実践哲学として大切というだけでなく、日々の小さな取り組みを進める中でも、重要なことです。

「人格の完成をめざす」という視点があるとないとでは、方位磁針と地図をもって目的地をめざすのか、なんとなく勘で歩き続けるのかの違いがあります。

人格の完成と自立

「人格の完成をめざす」といわれても、何をどうしたらよいのかわかりません。「人格とは何か」「人格の完成とはどのような状態か」ということは、専門の研究者の間でも意見がちがいます。

すべての学説を理解し、結論を得てからでないと実践ができないというのは、現場の人間にとって現実的ではありません。

そこで、私は今のところ、次のように考えるようにしています。これが正しいというだけでなく、とりあえず、自分なりの規定をすることで、実践に生かそうというわけです。

私の考える当面の「人格の完成をめざす」とは、「正しい習慣を身につけることをめざす」ということです。

正しい習慣

「人格」と言われると、ちよつと敷衍が

高い印象があります。「習慣」ならば、イメージしやすいのではないのでしょうか。

たとえば、いじめをよくする子があまりしなくなったら、それはいじめをするというマイナスの習慣を改善したことになり、「人格の完成」に少し近づいたと考えられます。

そうじをさぼってばかりいた子が一生懸命に取り組むようになれば、これもよい習慣が身についたというところで、「人格の完成」の方向に成長にしたことになります。

私の場合は、このように考えて、「人格の完成をめざす」ことで教育実践の方向づけをしています。

この考え方の長所は、大人にもあてはめることができるということです。「人格の完成をめざす」というときに、「それなら教師も、人格の完成をめざすべきだろう」といわれたらどうでしょう。

「大人と子どもは別」という言い方は、それなりの理屈はあります。

ただ、できれば、子どもの指導と自分の生き方が一貫していた方がすつきりすることも事実です。

「人格の完成をめざす」ということを「正しい習慣を身につけることをめざす」と考えれば、それほど無理はありません。

私の場合なら、メールマガジンを発行する、朝のウォーキングをする、実践記録をつける、といったことを意図的に習慣にしてみました。

「人格が完成に近づいているか」と言われると答えるのにためらいがありますが、「正しい習慣を身につけることをめざしている」とは自信を持っていえます。

### 表面上のことだけにとらわれすぎない

ここで気をつけなくてはならないのが、表面上、いじめが止まればそれでよいのか、そうじをするようになれば必ず「人格の完成」に必ず近づいたといえるのか、ということです。

担任が怖くて、とりあえず教師の前では掃除をするふりをするという状態では、正しい習慣がついたとはいえません。

教師に告げ口をしないように、他の子の口封じをするなどの悪循環に入ってしまう場合もあります。

これは、表面上のことからにとらわれすぎているために起きることです。その子が本当に納得して、成長して正しい習慣が身についた場合は、こんなふうにはならないはずですよ。

私はつい管理的に、子どもをおさえつけようとしてしまいます。しかし、長い目で見ただけ、あるいは本質的考えた場合、それでは「正しい習慣を身につけることをめざした」ことにはならず、ということは「人格の完成をめざした」ことにもならないということですよ。

### 百マス計算で学校が荒れた!?

百マス計算については、「学力研の広場」でも何回か書きましたが、繰り返したいと思います。

百マス計算は、とても効果的で効率的な取り組みだと確信を持っています。

ところが、これをやることで学校が荒れたという話を聞いたことがあります。ちょっと信じがたいのですが、もし、以下のようないふことがあれば、荒れもありうるかもしれないと思うようになりました。

- ・継続的な取り組みをせず、時間の測定や正解数の記録などをしていないで、教師の思いつきでやるため、子どもに伸びが見られない。

- ・伸びが感じられないため、子どもに自己肯定感や達成感を味わうことができていない。

- ・一人一人の伸びに着目せず、順位を競争させるために速い子が遅い子を馬鹿にするようになる。

### 心地よさと「楽」のちがひ

こうしたことにならないためには、「心地よさ」の視点をもつことがお勧めです。

百マス計算で心地よさを味わえるのはどんなときでしょう。それは、前述の箇条書きの逆をすればよいということに気づかれたかと思えます。

百マス計算だけにかぎりません。硬筆書写であっても、漢字、縄跳び、何でも同じです。